## 平成24年度 第4回 経営協議会議事要録

- 1 日 時 平成24年11月27日(火)14時00分から16時00分
- 2 場 所 地域・国際交流プラザ 会議室
- 3 出席者

(学外委員) 青野委員、植田委員、古川委員、松尾委員、松村委員、山本委員

(学内委員) 香川学長、高石理事、野地理事、岩川理事、佐野理事、安井病院 長、大西大学院ソシオテクノサイエンス研究部長

(陪 席) 牧野監事、小巻監事

(事務局) 総務部長、財務部長、学務部長、施設マネジメント部長、研究国際部長、情報部長、総務課長、企画・評価課長、財務課長、資産管理課長ほか

## 4 協議事項

(1) 平成23年度に係る業務の実績に関する評価結果について

岩川理事から、別紙協議事項1資料により、国立大学評価委員会が実施した 平成23年度に係る業務の実績に関する評価結果について説明があり、審議の 結果、これを了承した。

(2) 平成25年度概算要求について

岩川理事から、別紙協議事項2-1資料及び2-2資料により、平成25年 度概算要求事項の概要について説明があり、審議の結果、これを了承した。

(3) 碧水寮の廃止・売却について

岩川理事から、別紙協議事項3資料により、稼働率低迷による碧水寮の廃止 ・売却について説明があり、審議の結果、これを承認した。

(4) 平成23事業年度財務諸表の承認について

岩川理事から、別紙協議事項4資料により、平成23事業年度の財務諸表が 承認されたことについて説明があり、審議の結果、これを了承した。

(5) 職員の退職手当の支給水準引下げについて

岩川理事から、別紙協議事項5資料により、国家公務員退職手当法の一部を 改正する法律が成立したことに伴う職員の退職手当の支給水準引下げについて 説明があり、審議の結果、これを承認した。

(6) 農工商連携センターにおける徳島県立農業大学校跡地利用計画(案)について 野地理事から、別紙協議事項6資料により、農工商連携センターの概要と石 井町からの誘致による徳島県立農業大学校跡地利用計画(案)について説明があ り、審議の結果、これを承認した。 (7) 大型競争的資金の獲得状況について

野地理事から、別紙協議事項7資料により、現在の大型競争的資金の獲得状況について説明があり、これを了承した。

(8) 平成24年度上半期の外部資金受入状況について

野地理事から、別紙協議事項8資料により、平成24年度上半期の外部資金 受入状況について説明があり、審議の結果、これを了承した。

## 5 意見交換

(1) COC (Center of Community) について

学長からの大学改革の動向や政府の方針等の説明に引き続き、佐野理事から、別紙意見交換1資料により、国立大学改革実行プランにおけるCOC (Center of Community) 構想の概要及び徳島県における解決すべき課題とその解決に向けて徳島大学が期待される役割等について学外委員の立場から意見を伺いたい旨説明の後、意見交換を行った。

主な意見は次のとおり。

- 機械工業界の産官学コンソーシアムにおける問題点として
  - ・ 零細企業が多く、研究の人手及び経費の確保が困難
  - ・ コスト面で成果物と市場とのマッチングが困難なため、研究テーマの 成功例が非常に少ない
- 農業における課題として
  - ・ コストを下げ、生産効率を上げる
  - ・ 中小企業と同様に海外進出をすることも必要ではないか
- 総合メディカルゾーンの仕組みが外部から判りにくい
- 既に実施している多数の連携事業を地域における重要性や必要性により 絞り込み、継続できる事業として取り上げてはどうか
  - 東南海・南海地震に対する地震・津波対策
  - ・ 糖尿病対策のさらなる支援
  - ・ LEDの新しい利用方法の開発 など
- 自分で考えて行動できる基礎能力を持った人材の育成に、もう少し力を 入れるべきではないか
- 大学で実施している地域連携事業を社会にもっと認識してもらうことで、 さらに地域からのニーズや方向性が得られるのではないか
- 地域の人々の暮らしの実態を学生がもっと体感し研究することにより、 その結果、学生ひいては大学が地域と繋がっていくのではないか
- 地域連携事業の顔になるものがあったほうが、地域の人々にもっと認識

されるのではないか

- 学生のインターンシップを、地域店舗や農家などで行ってもいいのでは ないか
- (2) 労働契約法の改正に伴う企業の取り組みについて
- (3) 障害者雇用率引き上げに伴う企業の取り組みについて (2)(3)について、企業等での取り組み状況について報告があり、課題や参考 となる事例について意見交換を行った。

次回の経営協議会は、平成25年1月下旬に開催することとなった。

(以上)